

地域学校協働活動：六郷小の取組

6年生家庭科 ミシンを使って

学校の授業に、地域の方々が子供の支援のため、または、主たる授業者として参加・協力する形の「地域学校協働活動」、【授業支援】としての取組を紹介します。六郷小学校では、7月に二つの【授業支援】を実施しました。少し詳しくご紹介します。

まずは7月1日（火）、6年生の家庭科の「ナップザック、トートバッグを作ろう」というミシンを使う学習に、六郷小の学校運営協議会の委員さんの呼びかけによって元学校長や元教員など6名の方々が、さらに、学校からの呼びかけで保護者の2名、合わせて8名のボランティアが【授業支援】に取り組まれました。

子供たち1、2名の学習テーブルに1人ずつボランティアさんが入るという恵まれた状況。上糸・下糸のかけかたや縫う速度、姿勢などに至るまで、6年生の子供たちの取組に寄り添い、優しく助言していただきました。子供たちも一生懸命ミシンに向かい、積極的にボランティアさんに助言を求めながら学習を進めました。

こうしたボランティアがいないと、あちこちから「先生！どうしたらいいですか！？」といった声があがり続け、1台のミシンに糸が絡まったりするとその処置に当たらねばならず、学級担任はてんてこ舞いになります（筆者経験から）。こうした支援をいただくと、学級担任は落ち着いて授業全体を、そして一人一人の取組を観察することができ、適切な指導・評価を行うことができます。子供たちの学習が速やかに展開していく様子を見ながら、学びに向かう姿勢が効果的に育っていくだろうと感じました。ボランティアの協力による顕著な効果が確認できる授業でした。



続いて、7月3日（木）の5時間目に行われた「親子防災教室」をご紹介します。

六郷小学校のこの「防災教室」は、昨年度は茨城新聞でも取り上げられた全校児童対象の学習です。授業の中心は、地元光風台の自主防災会の方で、その会長の方が六郷小学校の学校運営協議会の委員でもあります。この日は会長さんはじめ計6名の防災会の方々がボランティアとして参加・協力してくださいました。

昇降口に集合した全校児童と保護者・先生たち。会長さんから、火災が起きたときに自分がすべきこと三つを教わりました。そして次に取り組んだのは、水が入った消火器を実際に噴射してみる体験です。

用意された消火器は全部で12本！各学年2本ずつを使い、集まった保護者とともに子供たちが全員体験します。「火事だー！火事が起きた！」と大声を上げ、教えていただいた通りにピンを抜き、管をもって標的に近付き、消火します。こうした消火器を使う体験は、多くの学校でも実践されていますが、全校児童が体験できるのはなかなかないことです。そういう意味でも、たいへん貴重な体験であったと思います。



続いては、全員が体育館に移動し、用意した「防災カードゲーム」に取り組みました。地区ごとにグループとなり、保護者や先生たちも参加してゲームを行います。地震や水害などの災害について、カードを「七並べ」の要領で一人ずつ出して並べていき、そこに書かれている災害時に注意すべき内容を読み上げていきます。大人と子供が一緒になって防災について学ぶ場面でした。



最後に、自主防災会の方々に代表児童から感謝の言葉が述べられ、学習会は終わりとなりました。今いくつかの学校で、地域とともに取り組む防災学習・体験が模索されています。地震、水害、火災など、災害は常に自分たちの身の回りに起きる可能性があるもの。だからこそ、学校だけでなく地域と協働的に、自分たちの命や暮らしを守る方法を子供たちに身に付けさせたいと願う校長先生が多くいます。「地域学校協働活動」としての様々な防災への取組が期待されます。